

「愚直」語彙力錬成特講 ～既視感を君に～

☆はじめに

「現代文に必要な力は？」と僕の受け持つ生徒さんに聞いてみると非常に面白い解答が返ってくる場合があります。「現代文？センスじゃないんですか？！」「現代文？読書量でしょう？！」あまつさえ「現代文なんて勉強しようがあるんですか？！」なんてことを言うってくる子すらいるんですね。しかしこれが本当に面白い理由は別にあって、実はこの解答を語る子には一般的に「国語ができる子」と太鼓判を押されたような典型的な文系人間が多いんですよ。国語の試験ができる人が国語を指導できるとは限らない、国語の試験ができる人が国語の本質を理解しているとは限らない、ということです。そもそも「国語」というくくりそのものが可笑しいのですが、その話はまたの機会にいたしましょう。

僕が取り違えていただきたくないのは、僕たちが目指す目標はあくまで、実際に受験していく試験においてある一定の高得点をたたき出すことであり、「大学合格」ではありません。大学受験。これは確かに人生において大きな転換点になりえるんですね。初めから負けてよい勝負など一つたりともありません。勝負にはこだわってください、ひたすら！！しかし、大学に合格してそこで人生は終了ですか？僕たちが本当に見据えていかななくてはいけないのは「大学に合格してから、そこで何をするか」であり、「社会に出て、どのような人的財産になっていくか」ということです。そこでもって必要になってくるのは、受験ごとき低レベルな次元で留まる「試験問題に解答するための方法論」などではなく、「本物の読解力」であります。君たちはこれからたくさんの本を読むことになるでしょう。綺羅星のごとく輝く文豪たちに洗練された言霊の数々、人類の一個の知能が到達しえた高みがほのかに垣間見えるわけです。偉大なる文筆家達の込めた焔のような思いを読み解く際、君たちは何を見るんでしょう。まさか、傍線部を探して設問に解答を始めるんですか？君たちがこれから読んでいく文章には、一本たりとも傍線は付されていません。真っ直ぐと透明な気持ちで、ただ与えられた文章と向き合うこと。これは社会に出たとき確実に効く、僕はそう確信しています。

さて、ここからは具体的な話に入っていきますでしょうか。文章を正面から読み解くとは言ってもある程度の読み方、方法論というものも例外こそあれど確かにあります。ここもやはりある程度は避けては通れないところではありますので、これについてまずは大枠だけ紹介しておきましょう。

☆文章読解に必要な二つのプロット

文章読解に必須な力は大別二分されます。一つは「論理の力」、もう一つは「語彙力」です。

「論理の力」については近年取り上げる教育者が増えてきており、文章の構造を理解するという点において効果的です。たとえば君たちは「人体」を理解しようとするときどのように考えていくでしょうか。人体というものは非常に複雑です。それを漠然とそこに存在しているものとして人体全体をとらえますか？勿論違いますよね。おおよそここは頭で、ここは首で、となるところはお腹で、ここは足か、と。分けて考えませんか？パッと一目見て判然とは理解できない難物と出会ったとき、まずは分割する癖を付けてください。文章は分ければ分かりますから。いかな難解な文章であろうとも、文章の展開像、つまりところ筆者の主張や対立項、具体例の意図等構造が理解できていれば少なくとも正答は導けます。まずはここを徹底すべきです。早い話「文章構造を正確に把握する力」、これが論理の力だと理解しておいて頂ければよいかと思えます。

そしてここからが本題です。今回、この講義の位置づけとしては「国公立を目指す人のための基礎総ざらいコース」ということですから、ある程度基礎の範囲で、それでいて血にも肉にもならないようなことはするまいと考えた結果「語彙力錬成」のカリキュラムを組みました。

僕は今、君たちの語彙力に少々不安を覚えています。もし会場をふと見まわしてみる、すると英語の模試直前、君たちは必死に単語帳、文法帳を眺めて必死に暗記のふりをしようとしています。しかし、国語の模試直前、テキストを開いている人は皆無に近いんですね。いたとして古文の単語帳、文法帳、漢文の句法帳です。現代文の語彙テキストを必死になって読んでいる人はいません。この現況が僕を著しく不安にさせるんです。君たちはもしかすると少し誤解をしているのかもしれない。現代文は「日本語」だから、どうか読めるだろう、と。はっきり言っておきましょう。一般の高校生にとって現代文の、なかなか評論に書かれている言葉は半ば「異国語」のようなものです。そもそも普段聞かないんですよ。「クレオール」だの「ア・ポステリオリ」なんて。そんな言葉を使って普段会話している学生がいたとするならば、正直背伸びしたい盛りの学生、もしくはただの変人という判断をせざるをえません。そんななじみのない言葉を相手取って君たちは戦わなければならないんです。大学受験、そこまで甘くはないんですよ？ここをまず了解しておいてください。

また、これは国公立のみならず私大を志望される方にも必須の講義であろうと思われますので、ぜひここで未来につながる本物の知識、教養を体得していただければと思います。

ここで君たちに感じてほしいのはただ一つ、「既視感」です。デジャヴとも言いますよね？

「あ、なんだかこれ見たことあるぞ?」「ん?これは!」そういった感覚を起こして欲しいんですよ。先ほども言った通り、現代文で語られる言葉、思想はどれも一般の高校生にはなじみが薄いものです。逆に言えば、これをもともと知っていれば読解をかなり有利に進めることができるのは最早自明の理ですね。本文で語られる知識をあらかじめ知っておくだけで読解の深度は決定的に違いますし、なにより心に余裕が生まれます。「これ知ってるぞ?なら、おそらく次はこういう反対説がくるな」と、同時に論展開の流れも推測できるわけです。

得点分布曲線が殊更に安定しない現代文という科目において、先述の「論理の力」「語彙力」は爆発的な威力を発揮します。論理の力に関しては、塾や参考書等で対策されている方は多く、鍛えようと思えばすぐにでも鍛えられます。しかし、語彙力に関してはひたすらに繰り返すしかありませんから、受験を想定し始めるこの季節、是非ここで語彙力を体得してってください。本気で取り組めばこれほどおいしい講義は他にありませんよ☆

それでは頑張っていきましょうか!!

manevee.com 現代文科専任講師：key 太
(小林奎太)